

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<21週> 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数はここ10年間の最高レベルで推移している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<麻疹> 第21週の報告患者総数は1,613で、定点当たり報告数は0.54



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 咽頭結膜熱 / 流行性角結膜炎 / 手足口病 / 感染性胃腸炎 - ロタウイルスおよびSRSV / インフルエンザウイルス



速報
P.6

石川県における麻疹の流行



海外感染症情報
P.7

コートジボアールで黄熱流行 / バングラデシュで急性の神経疾患流行 - 更新



感染症の話
P.8-11

ヘルペス脳炎

中枢神経系へのHSVの侵入によって起こる。抗ヘルペスウイルス剤の早期投与が致命率を改善するため、PCR法で髄液中のHSVを検出する迅速診断が有用である。



読者のコーナー
P.12-13

警報・注意報発生システムについて



グラフ総覧(21週)
P.14-20



21週のデータ
P.21-28



発生動向総覧

第21週コメント 6月1日集計分

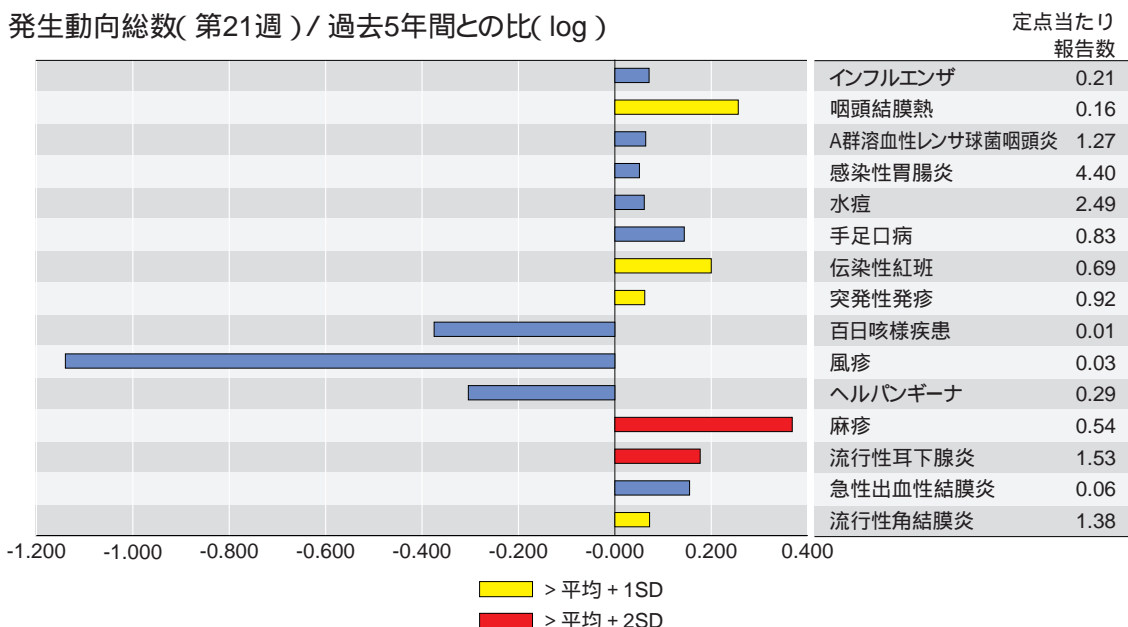
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢5例(推定感染地: 国内1例、インドネシア3例、エジプト1例)
腸チフス2例(推定感染地: カンボジア・タイ・ベトナム1例、不明1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症53例(うち石川県より14例。大学学生寮における
集団発生事例と報告されている。)
- 4類感染症: アメーバ赤痢4例、Q熱1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、ジアルジア症1例、ツツガムシ病8例(うち
新潟県5例)、日本紅斑熱1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、
レジオネラ症1例
急性ウイルス性肝炎12例 A型8例
B型4例__感染経路: 性行為4例
後天性免疫不全症候群15例(AIDS 5例、無症候性キャリア10例)
感染経路: 不明3例、性行為12例(同性間6例、異
性間5例、異性/同性間1例)
梅毒5例(早期顕症1例、無症候4例)
マラリア2例 三日熱マラリア1例(推定感染地: ラオス)
型不明マラリア1例(推定感染地: 南アフリカ)
デング熱1例(推定感染地: ブラジル)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

麻疹の定点当たり報告数は過去5年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている(詳細は4ページ注目すべき感染症参照)。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数もここ10年間の最高レベルで推移しており、福井県で5.3、佐賀県で3.2と多い。伝染性紅斑は関東地方と愛知県、三重県、福岡県などで増加しており、定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。流行性角結膜炎も定点当たり報告数が過去の同時期と比較してやや多くなっており、茨城県で4.3となっている。

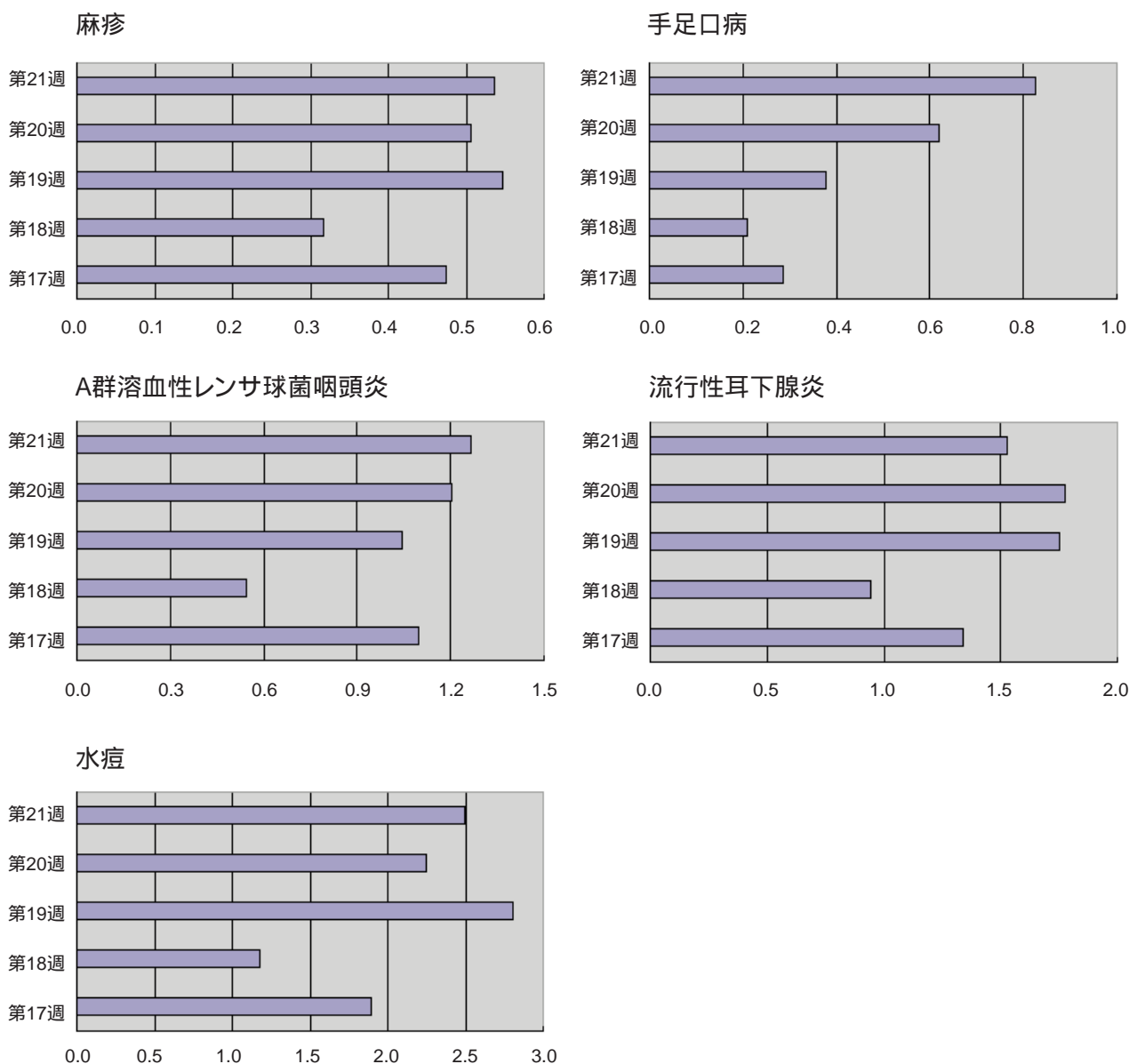
発生動向総数(第21週) / 過去5年間との比(log)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

最近の注目疾患－5週間の動き

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週より減少したが、例年より定点当たり報告数が多い状態が持続している。麻疹と水痘は前週より定点当たり報告数が増加した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり報告数が2週続けて増加した。手足口病は患者報告数が増加傾向にある。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

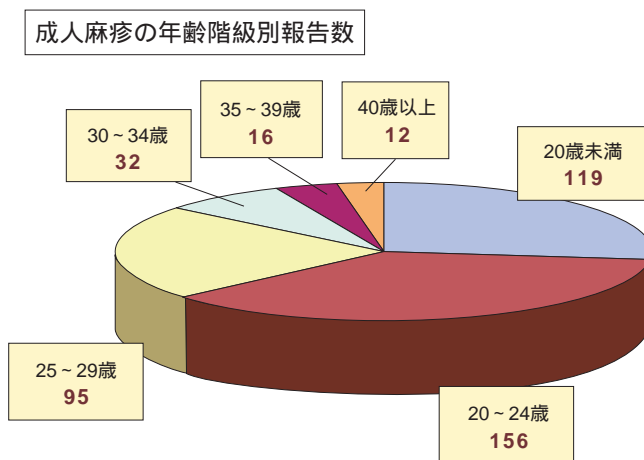
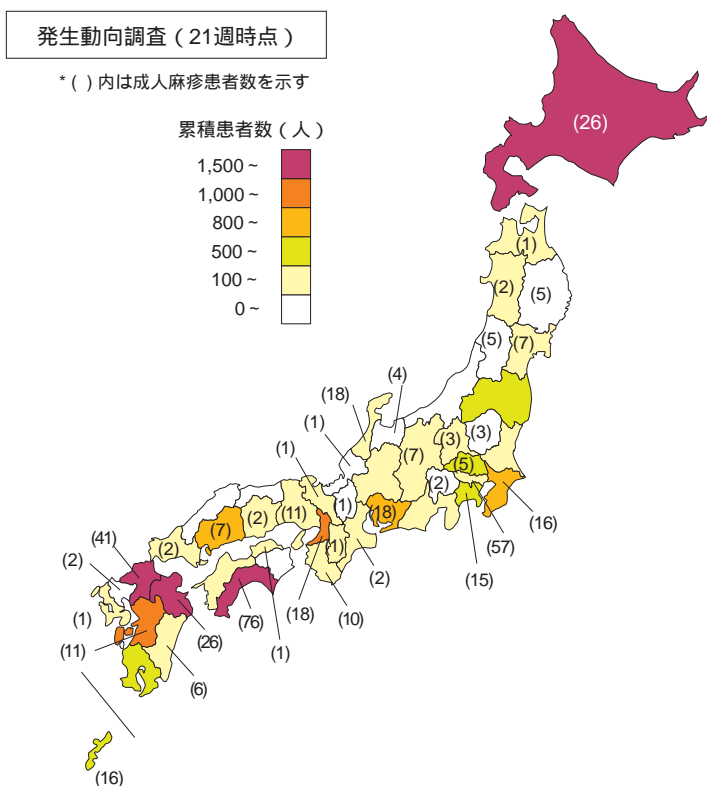
麻疹流行状況

2001年は当初より高知県、奈良県、九州地方などで流行がみられ、3月に入って北海道でも患者数が急増し、過去5年間と比較して定点当たり報告数がかかなり多い状態が続いている。

2001年第21週(5月21日 ~ 5月27日)の、全国定点医療機関からの麻疹報告患者総数は1,613で、定点当たり報告数は0.54である。2001年第1週からの累積患者数は20,740、性別内訳は男11,255、女9,485とやや男性に多い。累積報告数の年齢階級別では1歳未満2,781(うち6カ月未満266)、1歳4,599、2歳2,103、3歳1,524、4歳1,335、5~9歳4,746、10~19歳3,258、20歳以上394となっている。1999年4月より施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査では、小児科定点から報告される麻疹患者は18歳未満の小児であるが、小児科を受診する成人麻疹患者もあり、実際はこれらの症例が小児科定点を通じて報告されている。

また、上記で報告される麻疹とは別に「成人麻疹(18歳以上)」という項目を設けてサーベイランスを行っているが、これらの症例は基幹病院定点からの報告であり、多くは入院を要するような比較的重症例であると考えられる。2001年第1週から第21週までの成人麻疹累積報告数は430(昨年同期145)、年齢階級別で多いのは、20~24歳(156)、20歳以下(119)、25~29歳(95)などである。

厚生労働省感染症発生動向調査警報・注意報発生システムによれば、麻疹流行警報が福岡県の11保健所、北海道の10保健所、大分県の8保健所、熊本県の7保健所など97の保健所で、注意報は大阪府の11保健所、東京都、神奈川県などの6保健所など98の保健所で発生している。





病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス

2001年(2001年6月1日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型34件(長野県16、広島市4、東京都、滋賀県、岡山県、宮崎県各2、札幌市、埼玉県、奈良県、兵庫県、神戸市、愛媛県各1)、4型13件(兵庫県11、新潟県2)、7型6件(新潟県6)、1型4件(長野県2、広島市2)、2型3件(長野県2、広島市1)、19型1件(広島市1)である。

流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス

2001年(2001年6月1日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型26件(札幌市9、香川県6、長野県、熊本県各3、山形県、東京都、滋賀県、大阪府、大阪市各1)、4型12件(札幌市7、茨城県、香川県各2、長野県1)、37型4件(札幌市3、熊本県1)、8型3件(岡山県2、札幌市1)、19型3件(札幌市、山梨県、長野県各1)である。

手足口病患者から分離されたウイルス

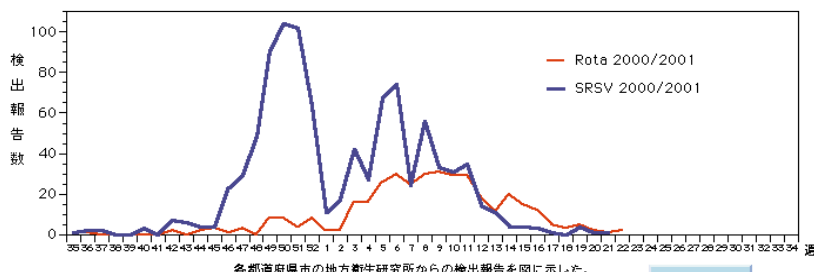
2001年(2001年5月23日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、コクサッキーウイルスA16型(CA16)6件(長野県3、長崎県2、宮崎県1)、A2型(CA2)1件(神奈川県)、エコーウイルス2型5件(大阪府5)、エンテロウイルス71型(EV71)3件(島根県3)である。

感染性胃腸炎 2000/2001シーズン ロタウイルスおよびSRSV検出報告 (2001年6月1日現在報告分)

今シーズンのロタウイルスの検出は369件、SRSVの検出は948件報告されている。最近では、ロタウイルスは第20週に奈良県2、第21週に奈良県1、第22週に奈良県2、SRSVは第20週に栃木県1、第21週に栃木県1が報告されている。SRSVは、過去2シーズンと同様に第50週のピークに加えて、第6週と第8週にも滋賀県などからの報告増加によるピークがみられている。

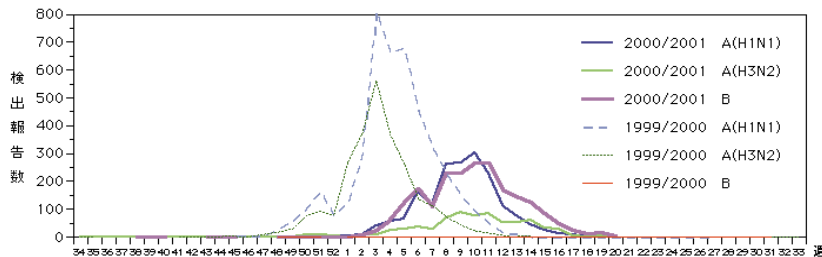
週別 S R S V & ロタウイルスの検出報告数、2000/2001シーズン
(病原微生物検出情報：2001年6月1日現在報告数)



インフルエンザ 2000/2001シーズン(2001年6月1日現在報告分)

今シーズンの分離ウイルスは、A/ソ連(H1N1)型が1,795件、A/香港(H3N2)型が725件、B型が2,132件報告されている。昨シーズンはA/ソ連(H1N1)型とA/香港(H3N2)型がともに第3週をピークとして分離されたが、今シーズンはA/香港(H3N2)型が第9週、A/ソ連(H1N1)型とB型は第10週がピークとなった。最近では、A/ソ連(H1N1)型が第20週に1(青森県)、A/香港(H3N2)型が第20週に3(山形県、兵庫県、愛媛県)、B型は第20週に6(山形県、長野県、奈良県)が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2000/2001シーズン
(病原微生物検出情報：2001年6月1日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を圖に示した。





石川県における麻疹の流行

石川県では、2001年第8週(2/19 ~ 2/25)より麻疹の患者報告がみられるようになった。この時点での患者数は、金沢市保健所及び能登中部保健福祉センター管内の3人であったが、その後は増加し、第12週(3/19 ~ 3/25)以降は週当たり20 ~ 35人程度で推移しており、第20週現在(5/14 ~ 5/20)までの累積患者数は250人となっている。

患者発生はほぼ全県的にみられるが、地域別にその数を見ると、能登中部保健福祉センター管内(七尾市、羽咋市とその周辺地域)がいずれの週でも最も多く、これまでの累積患者数の80% (200人)が上記の管内に集中している。また、これまでの累積患者数を定点当たりで見ると、能登中部保健福祉センター管内では50.0人と、全県での8.6人、他の保健所及び保健福祉センター管内の0.3 ~ 4.0人より著しく高い状況である。また患者の年齢分布では、小児科受診の成人麻疹も少数含まれるが、1歳以下が多く、0歳のうち6カ月未満は1人のみであった。

一方、このような流行に伴い成人麻疹の患者報告も第15週(4/9 ~ 4/15)よりみられており、その数は第20週までに16人となっている。発生地域は能登中部保健福祉センター管内(9人)と石川中央保健福祉センター管内(7人)である。患者の年齢は18 ~ 19歳2人、20 ~ 24歳6人、25 ~ 29歳5人、30 ~ 34歳2人、35 ~ 39歳1人であった。

また、当センターでは5月末日までに9人の成人麻疹患者(すべてワクチン接種歴不明)について、ウイルス分離検査の依頼を受けている。検体はすべて能登中部保健福祉センター管内の定点で3 ~ 5病日に採取された咽頭ぬぐい液及び血液である。現在までに6人の検査を終えたが、うち4人からB95a細胞により麻疹ウイルスが分離された(咽頭ぬぐい液から2人、咽頭ぬぐい液と血液の両方から2人)。なお、分離ウイルスの同定は中和試験または蛍光抗体法によった。

ウイルスが分離された4人はいずれも20歳代の女性で発熱、紅斑を認めたほか、上気道炎やリンパ節腫脹、口内炎を伴った例もみられた。また、学校職員など地域流行の中で患者に接触する機会が多い人も含まれており、未感染者においては医療従事者などと共に感染リスクの高い職業として十分な注意が必要と思われる。

なお、石川県における麻疹ワクチンの接種率は約83%程度(平成11年度)であるが、今回の状況から、県内における流行の地域的偏りの背景や、成人麻疹や年長児への感染とワクチン効果との関係などを明らかにするため、発生動向調査における報告患者のワクチン接種歴把握の必要性を感じた。

石川県保健環境センター 尾西 一 大矢英紀 米澤由美子 宮川茂樹
 芹川俊彦 西野久仁夫
 石川県能登中部保健福祉センター 杉田直道
 公立能登総合病院 石田 済

(IASR2001年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

コートジボアールで黄熱流行

WHO/CSR 2001年5月31日

コートジボアールの保健省は、同国南西部にあるDanane地区とDuekoue地区で死亡者3例を含む黄熱患者4例を報告した。2001年3月23日に17歳の女性患者から採取された血液標本からIgM抗体が検出され、黄熱と確定診断された。この患者は2001年3月24日に死亡した。検査はパリとアビジャンにあるパスツール研究所で行われた。現在のところ新たな患者発生の報告はない。

保健省は流行についての調査を続けており、在庫のワクチンを使ってワクチンキャンペーンを開始した。キャンペーンの遂行を確実なものにするために、WHOや援助団体からの追加のワクチン供給が必要である。

バングラデシュで急性の神経疾患流行 - 更新

WHO/CSR 2001年5月30日

WHO本部およびインド事務局のスタッフとタイのFETP(Field Epidemiology Training Programme)の3人の疫学専門家、ICDDR(International Center for Diarrhoeal Disease Research, Bangladesh)のスタッフは国際調査チームを作り、インド国境近くにあるMeherpur地方での調査を支援している。チームが現地入りしたのは2001年5月28日であった。チームは流行している地域の病院、周囲の医療機関、現地の村で詳細な調査を実施し、5月30日にダッカに戻る予定である。

チームからの速報では、現在新たな神経疾患患者は発生していない模様である。調査は継続されているが、病因はまだ特定できていない。



感染症の話

ヘルペス脳炎

ヘルペス脳炎は、単純ヘルペスウイルス1型(herpes simplex virus type 1 : HSV-1)あるいは2型(herpes simplex virus type 2 : HSV-2)の初感染時または再活性化時に発症し、発症年齢(新生児、年長児、成人)によってその病態はかなり異なる。年長児から成人のヘルペス脳炎のほとんどの症例はHSV-1によるものであり、新生児のヘルペス脳炎においては、森島らの全国調査(1993)によりHSV-1とHSV-2の頻度はほぼ等しいことが報告されている。

HSVが中枢神経系に移行する経路は、上気道感染から嗅神経を介してのルート、血行性ルート、感染した神経節からのルートの3通りが考えられている。新生児の場合は全脳炎のパターンをとることが多いが、年長児、成人においては、上記のルートを通じて好発部位である大脳辺縁系にウイルスが到達し、病変を起こすとされている。

抗ウイルス剤が開発されるまでの予後はきわめて不良で、小児のヘルペス脳炎の致死率は70 ~ 80%、成人のヘルペス脳炎においても30%の致死率であると報告されていた。抗ウイルス剤が開発されてからは致死率は10%程度に低下したものの、いまだ3分の1の症例においては重度の後遺症を残す重篤な疾患であることに変わりはない。

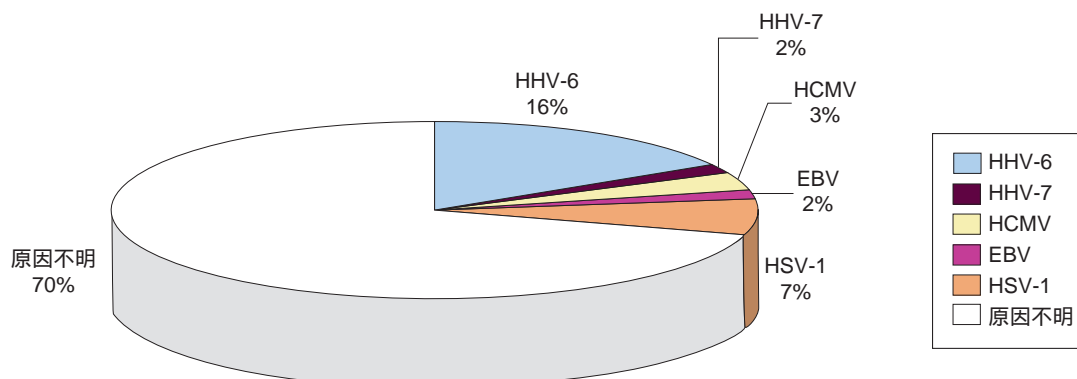
疫学

HSVは世界的に広く浸透したウイルスで、感染様式はHSVによる皮疹や口唇ヘルペスを発症した患者の唾液との密接な接触、性器ヘルペスからの母子感染あるいは性的感染によると考えられている。

HSV-1感染の好発年齢は2歳にピークがあり、6歳ぐらいまでに感染を受ける確率が高い。一方、HSV-2感染はsexually transmitted diseases(STD)としての性質を有し、15歳以下の小児における抗体保有率は1%以下である。感染を受ける年齢は20 ~ 30歳代が多く、Johnsonら(1989)によると、米国の若年成人における抗体保有率は20.2%であったと報告されている。発症に季節的な変動はないが、男女比ではやや男性の方が多く発症している。

森島らの全国調査の結果から、我が国での小児における急性脳炎・脳症の発症数は約1,000 ~ 2,000例/年で、(厚生省予防接種研究班、AND調査)そのうちHSVによるものは約80 ~ 160例と推測されている。成人も含めると、森島、亀井、Kagiらの報告により、年間100万人当たり1人、計300 ~ 400例といわれている。Whitleyらによると米国での発症率は年間50万人当たり1人であるが、年齢分布においては、日本の方が10歳以下の発症率が高いようである。参考のために、筆者らが以前にまとめた急性脳炎・脳症を生じた例での原因となるヘルペス科ウイルスを示す(図)。

図. 急性脳炎・脳症の原因ヘルペス科ウイルス (阪大小児科)



病原体

HSVはヒトヘルペス科ウイルス 亜科に属する約152kbpの2本鎖DNAウイルスで、直径約150 ~ 200nmである。増殖サイクルが速い時期を経過した後に神経節で潜伏感染する性質を有する。皮膚、粘膜に感染したHSVは知覚神経の軸索輸送により神経節へと運ばれ、潜伏感染状態に入る。ウイルス粒子内では線状DNAとして存在し、細胞に取り込まれたあとは、環状構造をとる。再活性化時は前初期遺伝子(immediate early gene)、初期遺伝子(early gene)、後期遺伝子(late gene)の順に転写が進行し、rolling-circle型のDNA複製を行い、envelopeをかぶったウイルス粒子として細胞外へ放出される。

HSVにはHSV-1とHSV-2が存在し、この2つのウイルス間のDNAの相同性は約50%である。制限酵素パターンやその他の分子生物学的手法、ならびに免疫学的手法を用いて区別が可能である。HSV-1は主に顔面に、HSV-2は主に外陰部に病巣を形成する。そのためHSV-1は三叉神経節領域、HSV-2は腰髄・仙髄神経節領域に潜伏感染することが多い。しかし、我が国においては欧米に比してHSV-1による性器ヘルペスの頻度が高く、新生児ヘルペスの原因ウイルスがHSV-1とHSV-2半々であることがそれを物語っている。ただし、性器ヘルペスの再発頻度としてはHSV-2の方が高頻度であるため、ウイルスの型別診断を行うことは重要である。

HSVの細胞への進入にはenvelopeに存在する糖蛋白glycoprotein D(gD)およびgBが関与していることが、Campadelli-Fiumeら(1988年)、Johnsonら(1990年)、Lee & Fullerら(1993年)によって報告されていた。その後、Montgomeryら(1996年)、Warnerら(1998年)の研究で、HSVの細胞進入に関与する蛋白はherpesvirus entry mediator(Hve)と命名され、この遺伝子産物はTNF/NGFファミリーに属し、現在HveA, -B, -C, -Dが見つかった。

また最近では、Chicago大学のRoizmanら、Alabama大学のWhitleyらのグループにより、HSV-1の 34.5遺伝子が神経病原性に関与していることが報告され、この性質を用いて 34.5欠損mutantを脳腫瘍の遺伝子治療に応用する報告がなされている。

臨床症状

潜伏期は2 ~ 12日(平均6日)である。新生児ヘルペス脳炎と小児期・成人のヘルペス脳炎ではその病態が異なる。その理由として、新生児ヘルペスの場合は産道で感染したHSVが血行性に全身に広がり、blood brain barrierを通過して中枢神経系に到達するが、年長児や成人の場合は血液からウイルスが検出されないことから、神経行性にウイルスが脳に進入し、好発部位である側頭葉、大脳辺縁系に病変を呈するため、と考えられている。小児期と年長児・成人の違いは、小児の場合はHSVの初感染に伴って発症することが多いのに比して、成人や年長児の場合はそのほとんどが再活性化によることである。

新生児ヘルペス脳炎に関しては名古屋大学の森島らの詳細な報告がある。それによると、新生児ヘルペスは全身型、中枢神経型、表在型の大きく3つのカテゴリーに分類され、脳炎の症状を呈するのは全身型と中枢神経型である。頻度的には全身型が36%、中枢神経型が36%、表在型が28%、発症時期は、全身型が生後平均4.6日、中枢神経型が平均11.0日、表在型が平均6.0日とされている。母親の性器ヘルペスから産道感染することが最も多いが、ヘルペス病変を認めない場合も多く、家族、医療従事者を含めて、口唇ヘルペスやひょう疽も感染源となり得るため、新生児との接触には十分に注意が必要である。

臨床症状は皮疹以外は非特異的で発熱、哺乳力低下、活気がないなどの症状から始まり、痙攣、肝機能異常、呼吸障害、出血傾向が認められるようになる。皮疹がない場合も多く、上記にあげる非特異的な症状をみた場合、いかに早く新生児ヘルペスを疑って治療を開始するかが予後を大きく左右する。

年長児・成人のヘルペス脳炎はHSV-1の再活性化によるものが多く、HSV-2は主に脊髄炎や髄膜炎の形をとることが多い。急性期の症状としては、発熱、頭痛、嘔吐、髄膜刺激症状、意識障害、痙攣、記憶障害、言語障害、人格変化、幻視、異常行動、不随意運動、片麻痺、失調、脳神経症状など多彩で、すべてが揃うことは少なく、発熱と不随意運動のみという症例も経験している。中枢神経症状を認める患者を診た場合にはまずヘルペス脳炎を念頭に置いて、迅速診断・早期治療を心がける必要がある。抗ウイルス剤の開発により致命率は減少したものの、後遺症を残す症例も多く、いまだ重篤な疾患の一つであることと、抗ウイルス剤投与中止後の再燃には十分な注意が必要である。

病原診断とは別に、検査所見として、まず髄液においては髄液圧は高く、髄液中の細胞数は軽度増加を認め、リンパ球・単球優位である。髄液タンパク量も発症1週目をピークに、100mg/dl程度の増加を認める場合が多い。髄液糖は通常正常範囲で、病初期には高値であることが少なからず存在する。

血液検査では、新生児ヘルペスの場合肝機能異常、LDH増加を高頻度に認め、CRPなどの炎症反応は軽度～中等度陽性にとどまる。Disseminated intravascular coagulation(DIC)を合併することも多く、呼吸管理や血漿交換等NICU管理が必要となる。一方、成人ヘルペス脳炎では肝機能異常の頻度は低く、炎症所見を軽度認める程度で、中枢神経系の症状が主である。

画像検査では、発症の極早期においてはびまん性の脳浮腫が認められる。その後側頭葉を中心としてCT上低吸収域あるいはmass effectを認め、出血巣が混在するようになる。予後不良の症例においては、その後低吸収域がさらに増加する。MRIはその進歩により、CTにくらべて早期診断に有用であると言われている。CTに比して、側頭葉底部や海馬領域など大脳辺縁系の所見がとらえやすいことがその理由と考えられ、片側性の側頭葉下部、島、海馬などの異常所見は強くヘルペス脳炎を疑う所見であると言われている。脳波所見では、非ヘルペス脳炎に比してperiodic lateralized epileptiform discharges:PLEDsの頻度が高い。

病原診断

髄液中のHSV DNAをPCR法で検出するのが最も迅速かつ有用である。ただし、抗ウイルス剤投与後はウイルス量が減少し、検出感度以下になるため、投与前あるいは投与初期の髄液で診断することが重要である。

ウイルス分離は新生児ヘルペスの場合は陽性であることが多いが、年長児、成人のヘルペス脳炎でウイルスが分離されることはきわめて稀であり、PCR法による迅速診断が必須である。

髄液中のHSV抗体価は森島らによると、発症後10日から1カ月の間に1週間間隔で繰り返しELISA法で実施するのが適当であるとのことである。発症後時間が経過した症例や、抗ウイルス剤投与後時間が経過した症例などにおいては、有用な検査方法である。また、ペア血清で血清中のHSV IgGの有意な上昇、あるいは急性期のHSV IgM陽性も診断の一助となるが、陰性例も少なからず存在するため、必ずその他の方法を同時に行っておく必要がある。

治療・予防

ヘルペス脳炎を疑う場合、一刻も早く抗ウイルス剤の投与を開始すべきである。第1選択はacyclovirで、10mg/kgを一日3回緩徐に点滴静注する。最近では、投与量を15mg/kg～20mg/kg/回に増量した方が治療成績が良いとの報告、投与期間も従来の14日間より21日間の方が再燃の割合が少ない等の報告もみられ、今後の検討課題である。また、治療終了時には、必ずPCR法

によるHSV DNAの陰性化を確かめることが重要である。

Acyclovirの作用機序は、HSVの持つthymidine kinaseによりリン酸化された acyclovirがウイルスのDNA鎖に取り込まれ、DNA鎖の伸長反応を止めることにより、ウイルス増殖を抑制することにある。ただし、腎機能が低下した患者においては血中濃度が高くなりすぎるため、クレアチニンクリアランスに応じて投与量の減量が必要である。発病初期に近い程効果が期待できるため、早期投与開始が望ましい。

第2選択剤はvidarabine(Ara-A)である。Acyclovirの効果が不十分な場合に投与を考慮する。その場合、acyclovirとの併用が奏効する場合もある。作用機序は、1) 宿主細胞のthymidine kinaseにより3リン酸となり、ウイルスDNA polymeraseを阻害、2) ウイルス特異的リボヌクレオチドリダクターゼを阻害、3) 非リン酸化体によるアデノシルホモシステイン水解酵素抑制、のいずれか、あるいはそれらの組み合わせによる。ヘルペス脳炎の場合の投与量として、基本的には1日15mg/kgを2時間以上かけて緩徐に点滴静注する。投与期間は10日間を1クールとする。副作用として白血球、血小板減少、肝機能異常に注意を要する。ペントスタチン製剤との併用により、腎不全、肝不全、神経毒性が発現するとの報告があり、併用は禁忌である。

その他、 グロブリン製剤、抗痙攣剤、脳浮腫に対して副腎皮質ステロイド剤、浸透圧利尿剤、濃グリセリンなどが併用して用いられる。

発生動向調査について

ヘルペス脳炎は、4類感染症定点把握疾患である急性脳炎(日本脳炎を除く)を代表する重要な疾患である。急性脳炎(日本脳炎を除く)は全国約500の基幹定点より毎週報告されている。基幹定点は一週間(月曜日から日曜日)の患者発生状況等を4類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票に記載し、翌週の月曜日に保健所に提供している。報告の基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ以下の3つの基準をすべて満たすもの

- ・発熱
- ・突然の意識障害
- ・以下の疾患の鑑別診断
 - 熱性痙攣や代謝性疾患、脳血管性疾患、脳腫瘍、外傷など
 - (炎症所見が明らかではないが同様の症状を呈する脳症も含まれる)

また、原因となった病原体の検索が望ましく、判明した場合にはその名称についても併せて報告すること。

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(国立感染症研究所感染症情報センター 多屋馨子)



読者のコーナー

Q: 注目すべき感染症〈麻疹〉のなかに出てくる、「厚生労働省感染症発生動向調査警報・注意報発生システム」とはどのようなシステムですか? インターネットで見ることができますか?

(K.Yさん)

警報・注意報発生システムについて

厚生労働省感染症発生動向調査における新システム「警報・注意報発生システム」は昨年末より本格運用が開始されました。このシステムのねらいは、都道府県衛生主管部局や保健所など第一線の衛生行政機関の専門家に向け、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾患について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにあります。このシステムは感染症発生動向調査の一部に組み込まれているものであり、厚生労働省のWISH(wide-area Information-exchange System for Health, Labor and Welfare Administration)と呼ばれるインターネット上に存在するため、インターネット上で一般に公開されているものではありません。

警報には、流行発生警報と注意報の2種類があり、警報の発生は、大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということを含意し、注意報の発生は、流行の発生前であれば、今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があるということ、流行の発生後であれば流行が継続している(終息していない)可能性が疑われることを意味します。ほとんどの感染症では、時間の経過とともに流行が地域的に拡大あるいは移動していくものであり、流行拡大を早期に探知するためには、小区域での流行状況を広域的に監視することが重要です。このシステムでは、感染症発生動向調査に関わる当該保健所とともに、当該都道府県内の全保健所の警報発生状況、全国の警報発生状況を把握できるようになっています。

国立感染症研究所感染症情報センターでは、警報・注意報発生の対象疾患となる定点把握感染症のうち、社会的要望の大きさを鑑み、インフルエンザや麻疹などについて、流行シーズン中、本システムで得られた情報の一部を迅速に還元・提供することにしています。

(警報発生の仕組み)

警報は、1週間の定点当たり報告数がある基準値(警報の開始基準値)以上の場合に発生するようになっています。前の週に警報が発生していた場合には、1週間の定点当たり報告数が別の基準値(警報の継続基準値)以上の場合に発生します。注意報は、警報が発生していないときに、1週間の定点当たり報告数がある基準値(注意報の基準値)以上の場合に発生します。

警報の基準値は、過去5年間の流行状況(全国の定点を有する保健所数×5年間×52週; 延べ約17万週)の中で、一連の警報発生の起こる確率が1%程度になるように定めてあり、注意報の基準値は、警報発生後の注意報を除いて、警報発生前の4週間に注意報が出る確率を約60～70%、警報が発生しない期間に注意報が出ない確率を約95～98%、注意報が出た場合にその後4週間以内に警報が出る確率(注意報の的中率)を約20～30%になるように定めています。各疾患の警報・注意報の基準値は以下のとおりです(基準値はすべて定点当たりの値)。

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	継続基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	1.0	0.1	-
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	2	-
感染症胃腸炎	20	12	-
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
突発性発疹	4	2	-
百日咳	1.0	0.1	-
風疹	3	1	1
ヘルパンギーナ	6	2	-
麻疹	1.5	0.5	0.5
流行性耳下腺炎	5	2	3
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

尚、基準値はすべて定点当たりの値です。また注意報の数字が入っていないものは、注意報の対象外という意味です。

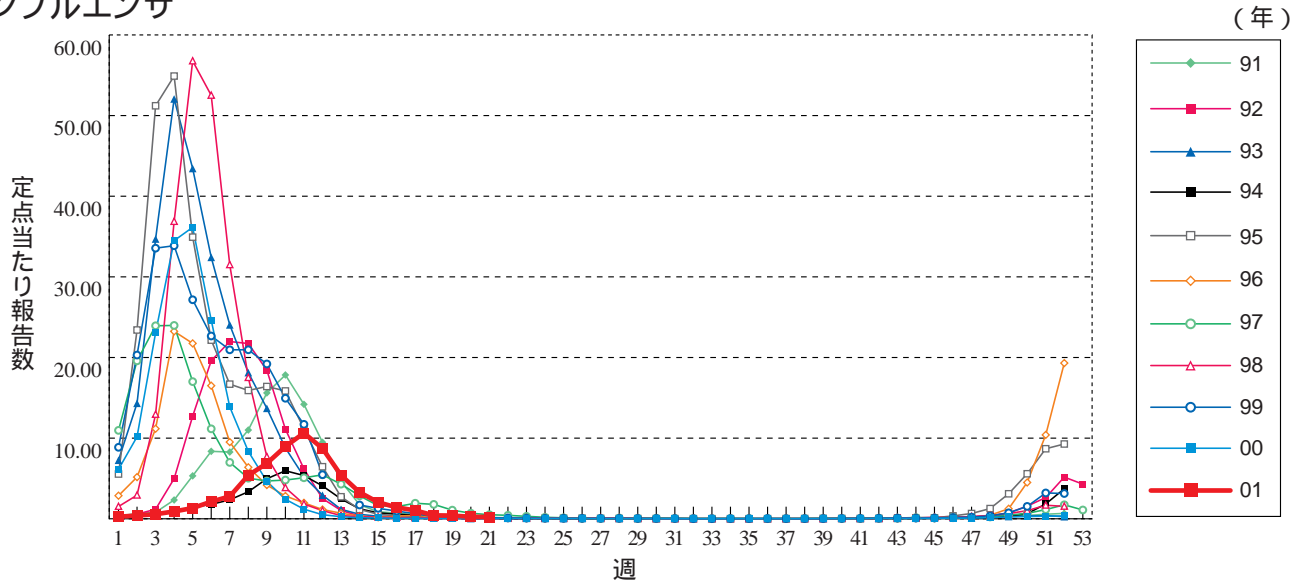
(国立感染症研究所感染症情報センター)

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

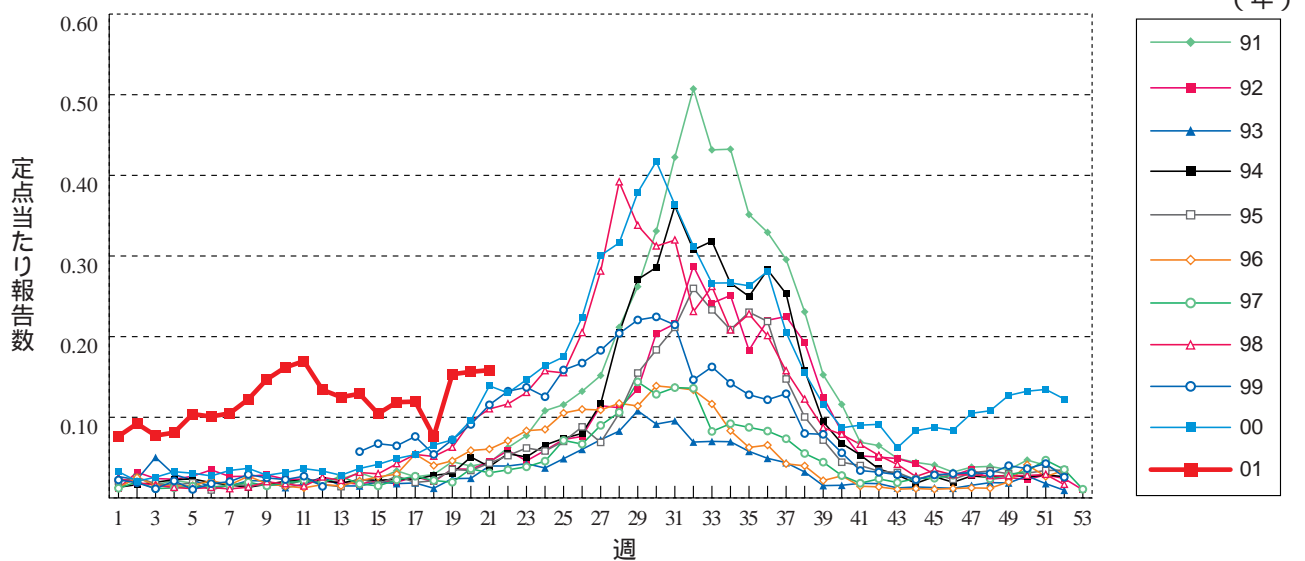
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(21週)

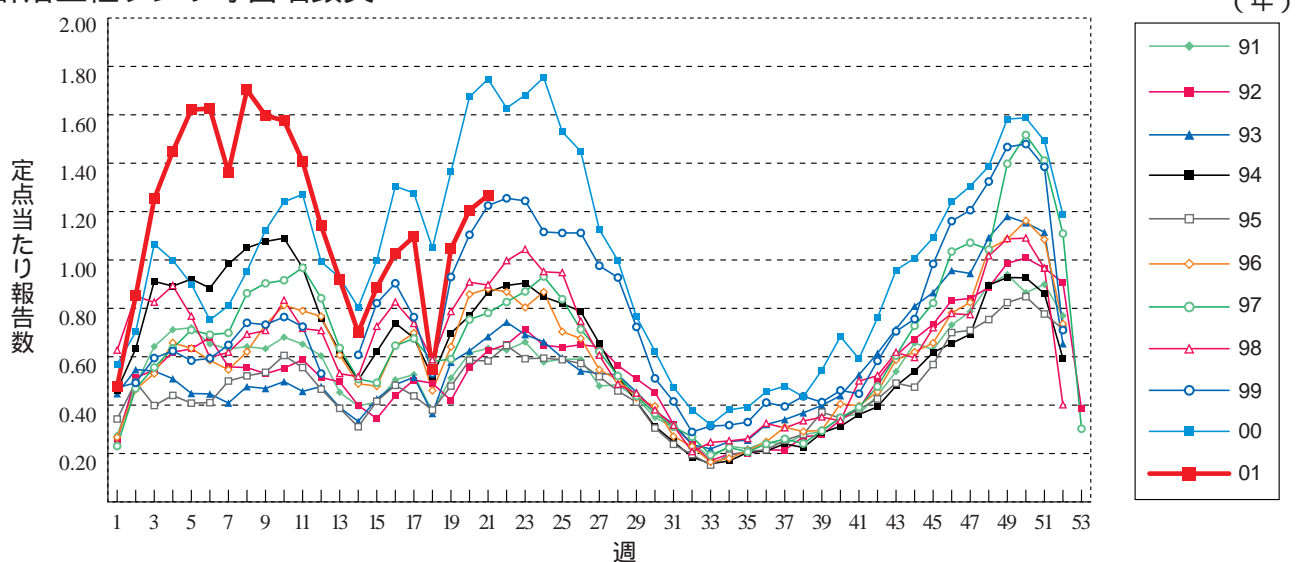
インフルエンザ



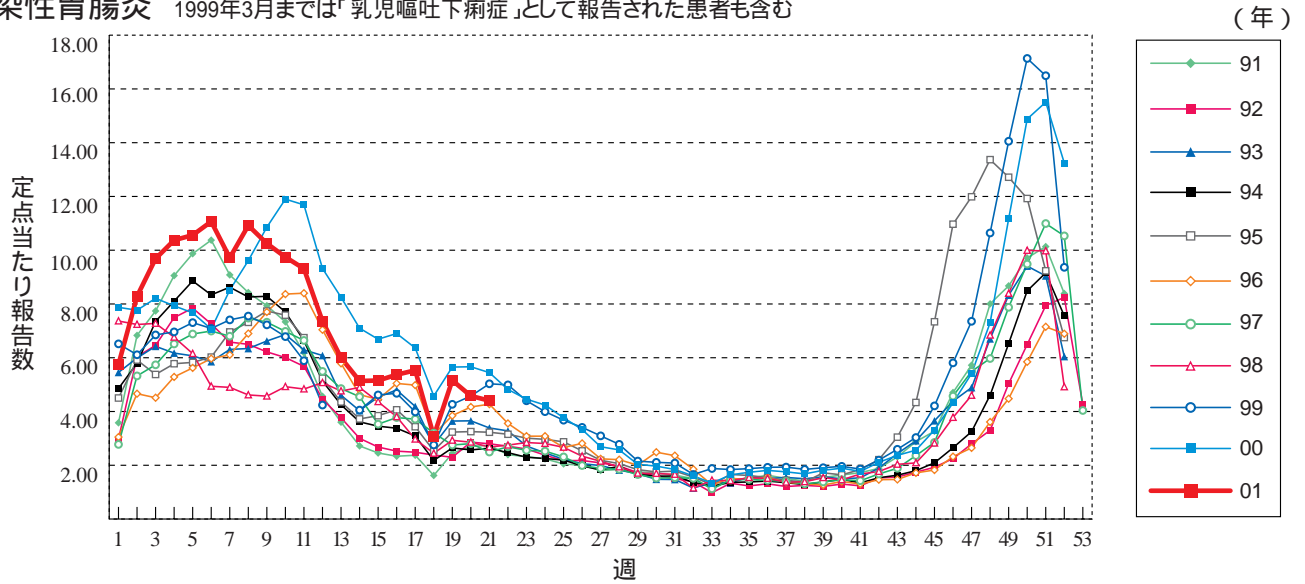
咽頭結膜熱



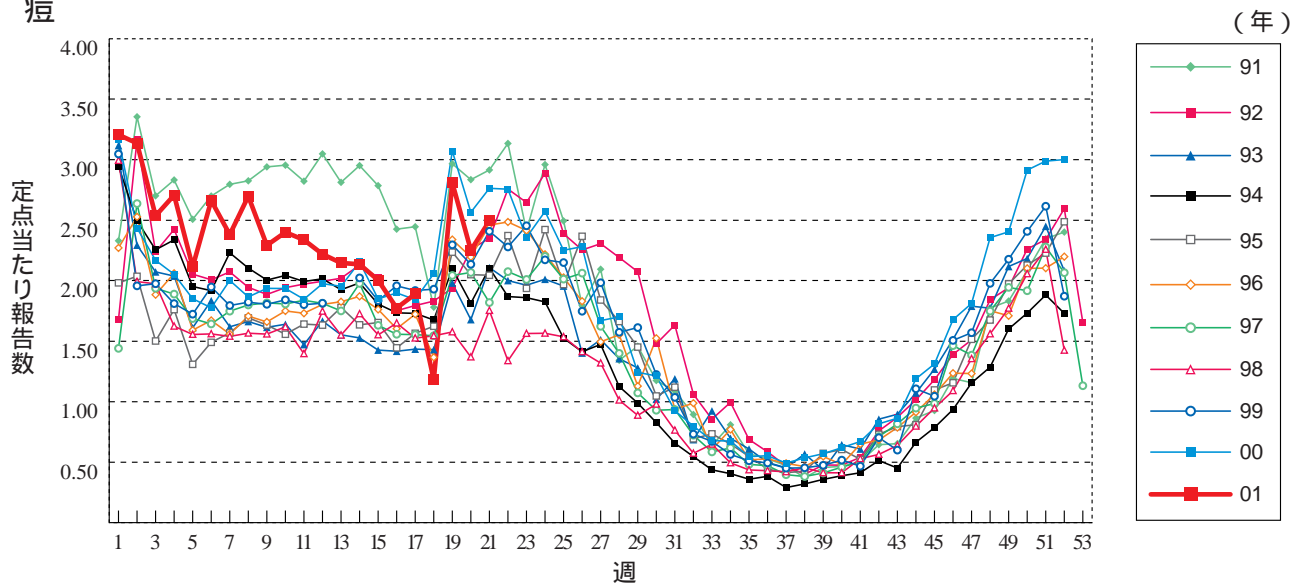
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



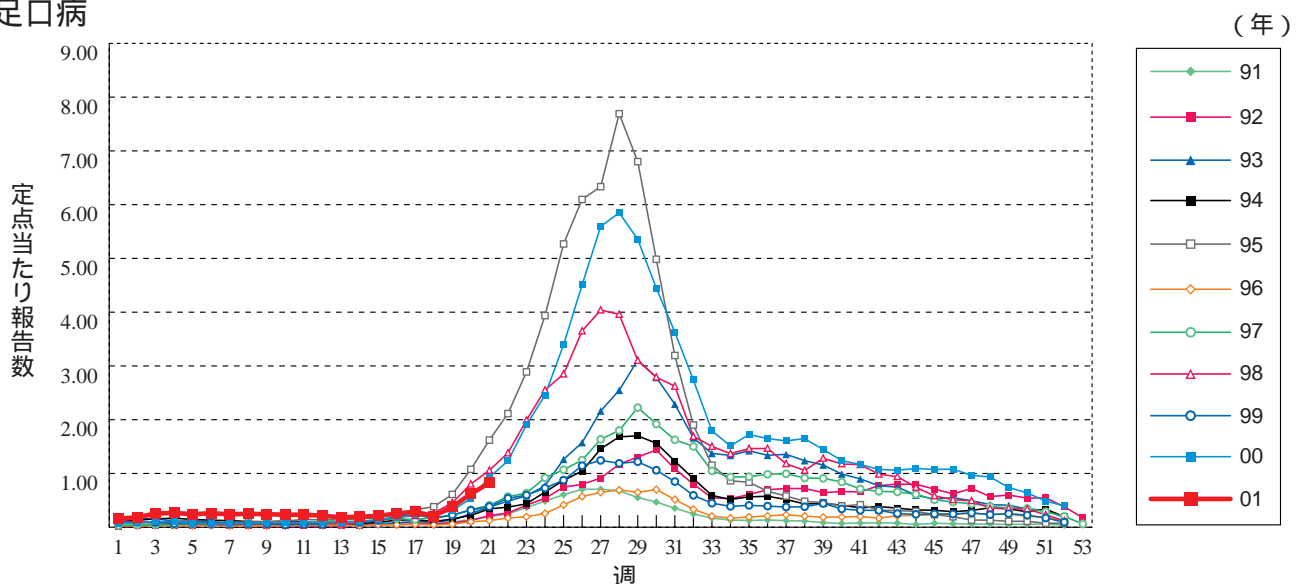
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



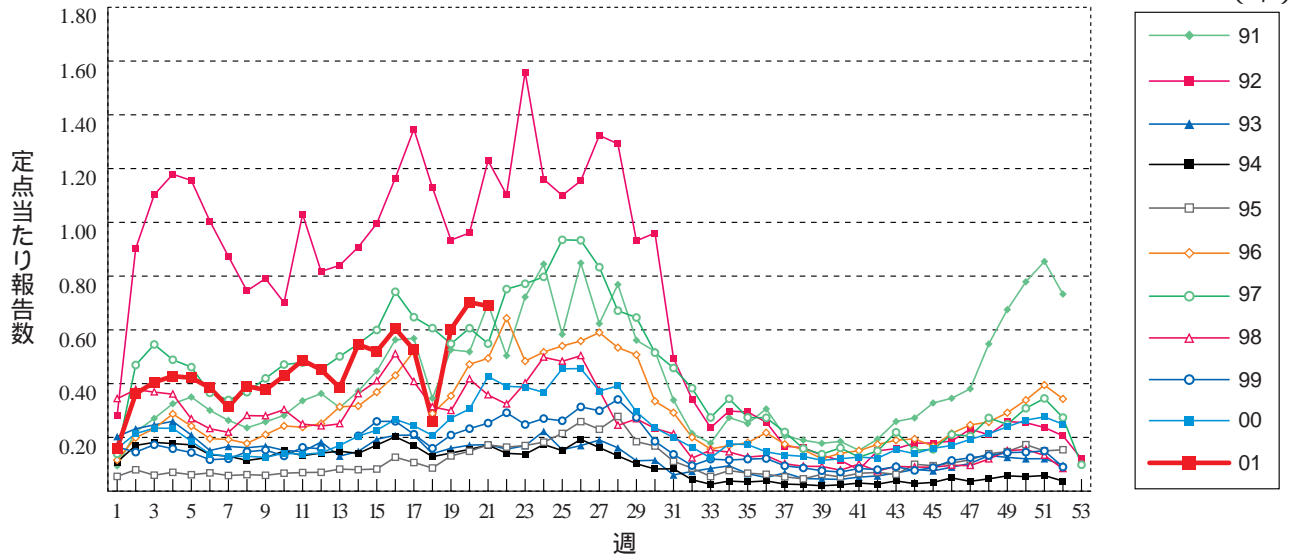
水痘



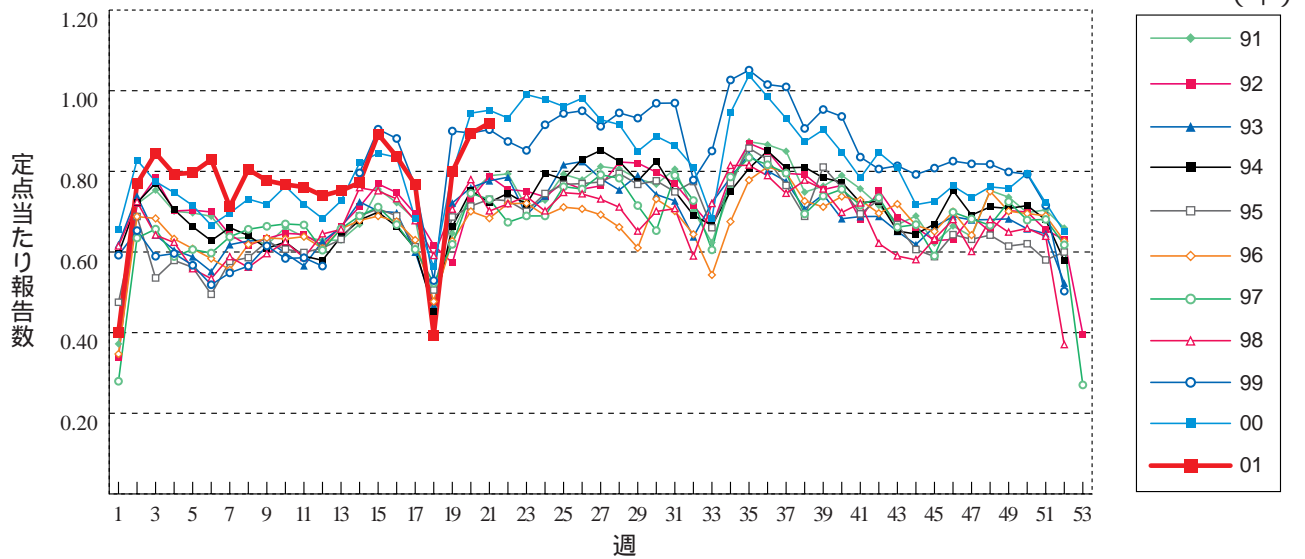
手足口病



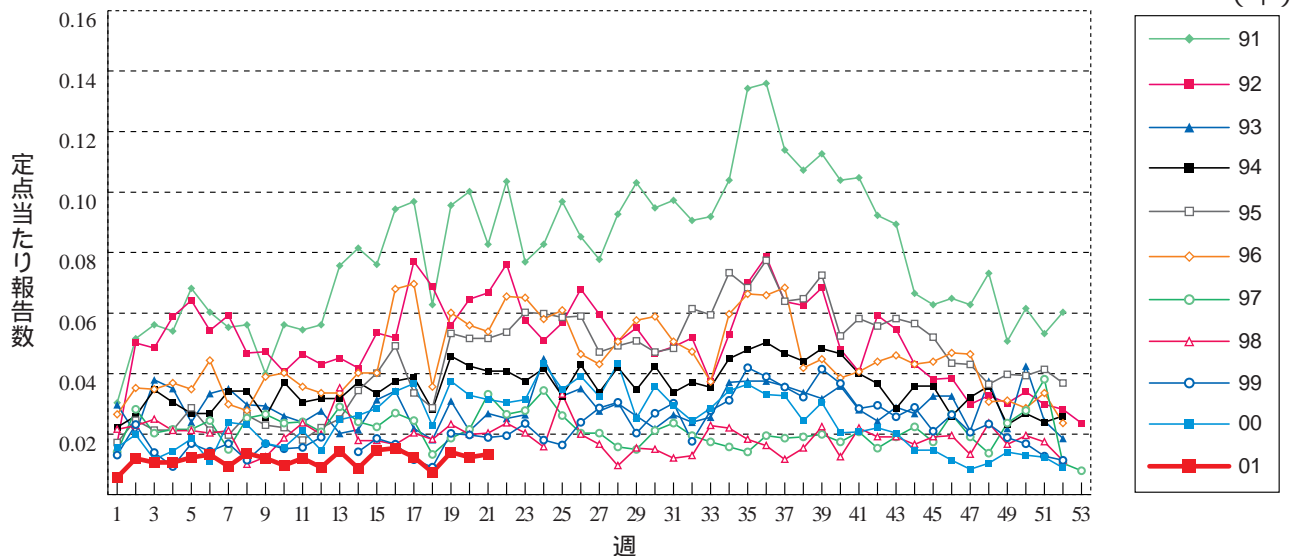
伝染性紅斑



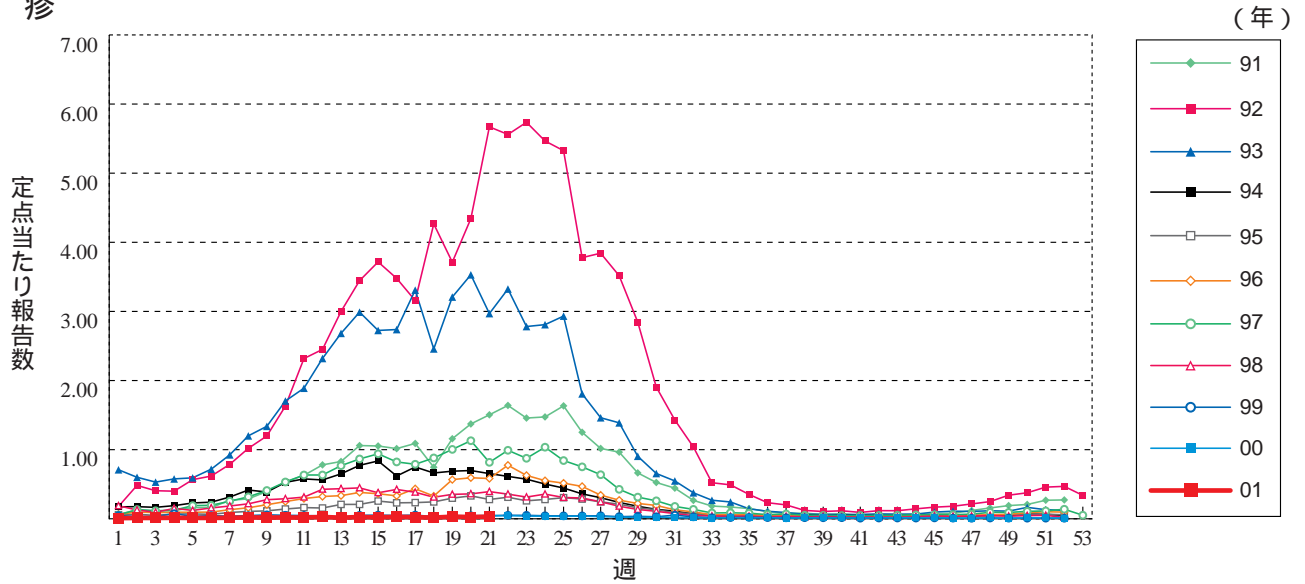
突発性発疹



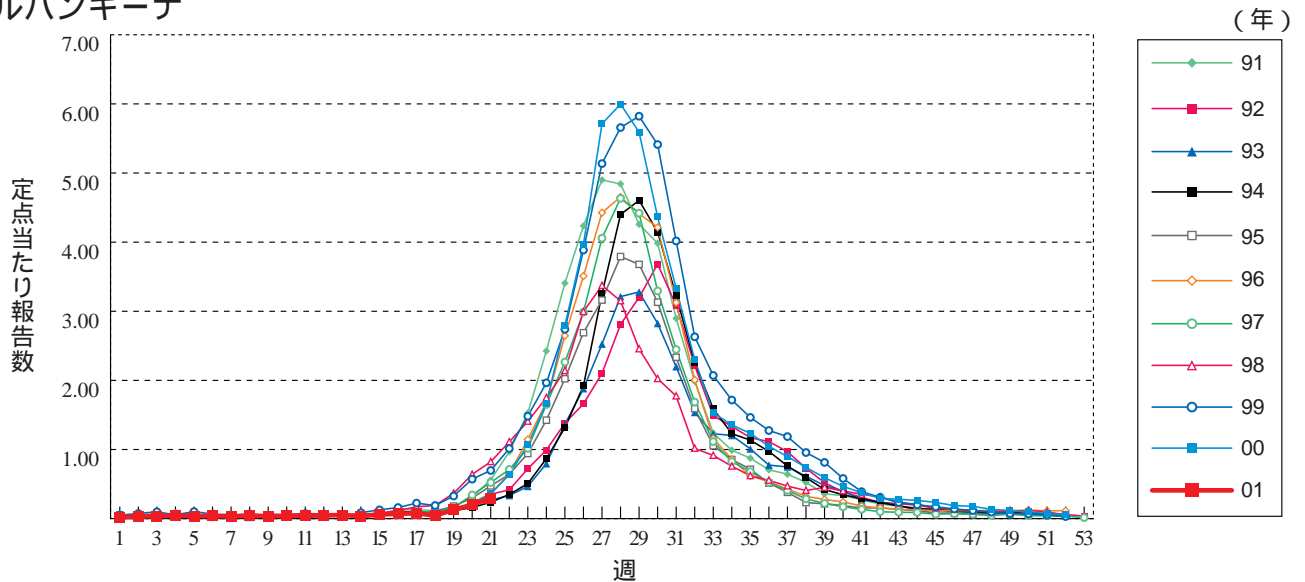
百日咳



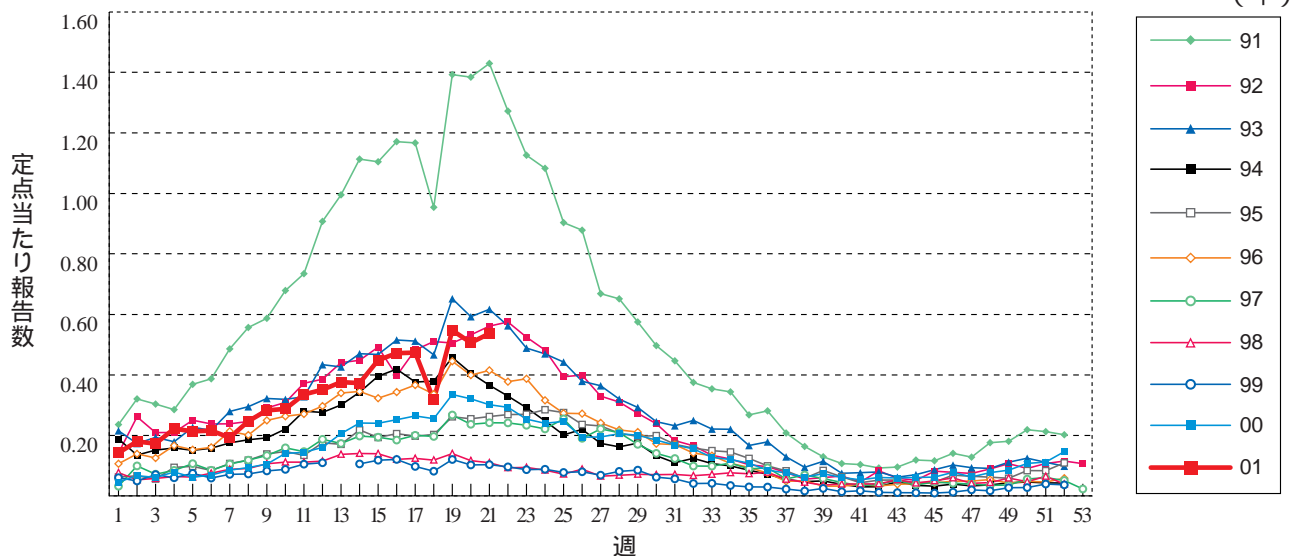
風 疹



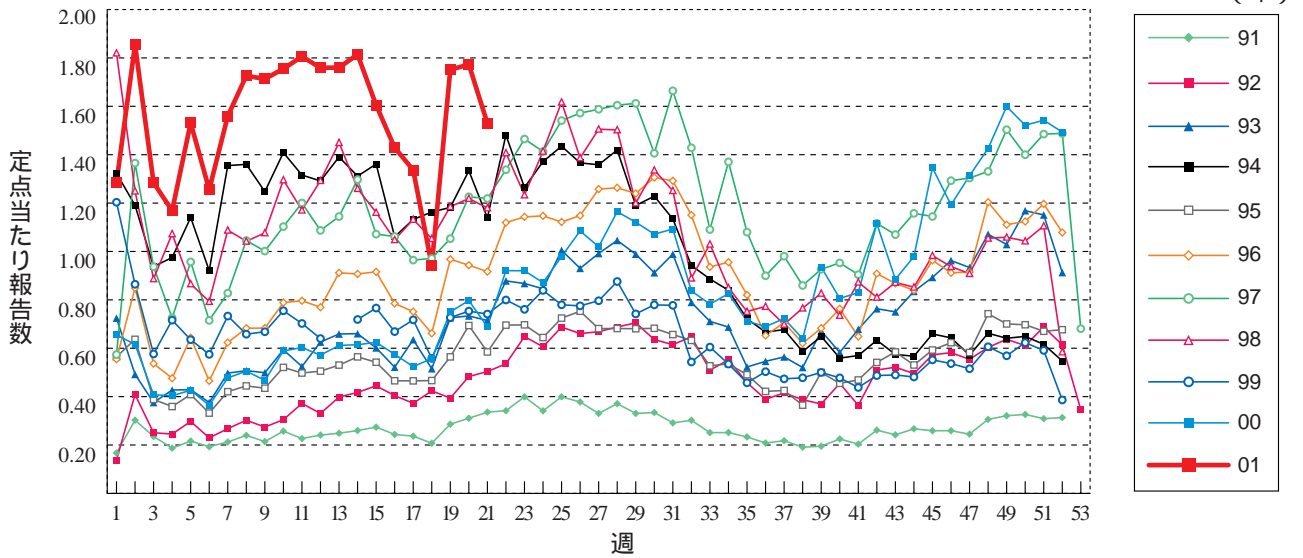
ヘルパンギーナ



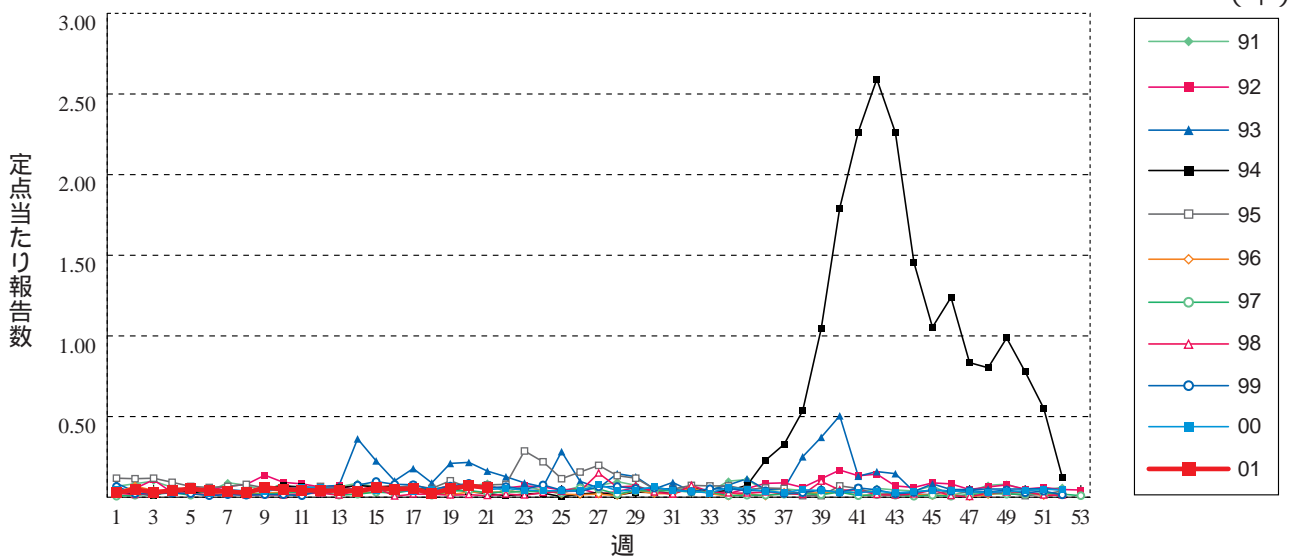
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



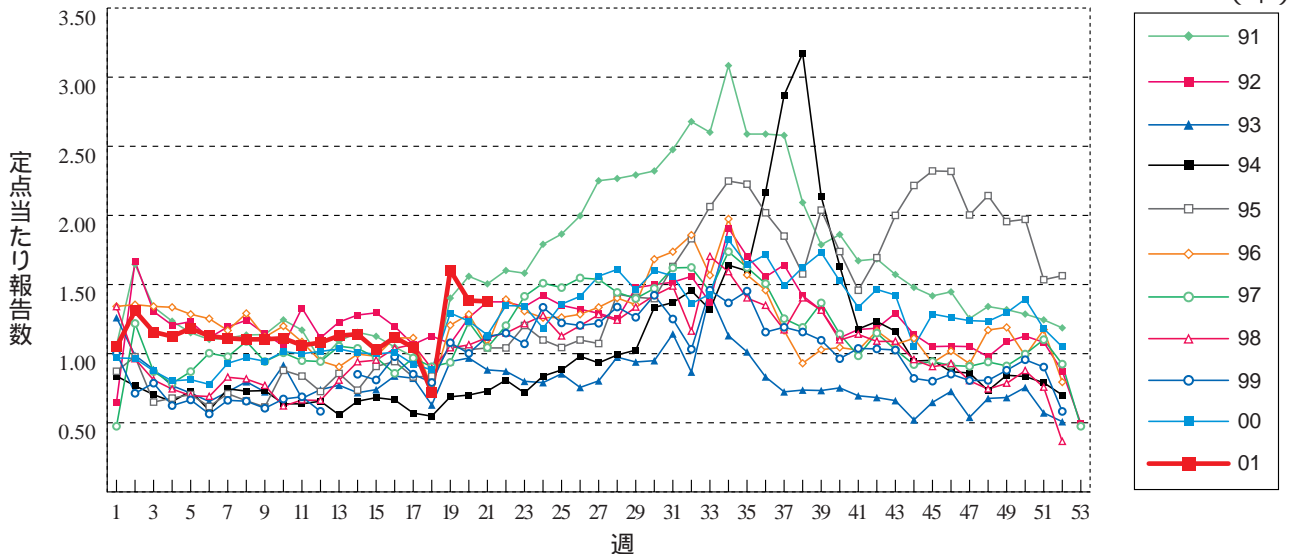
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

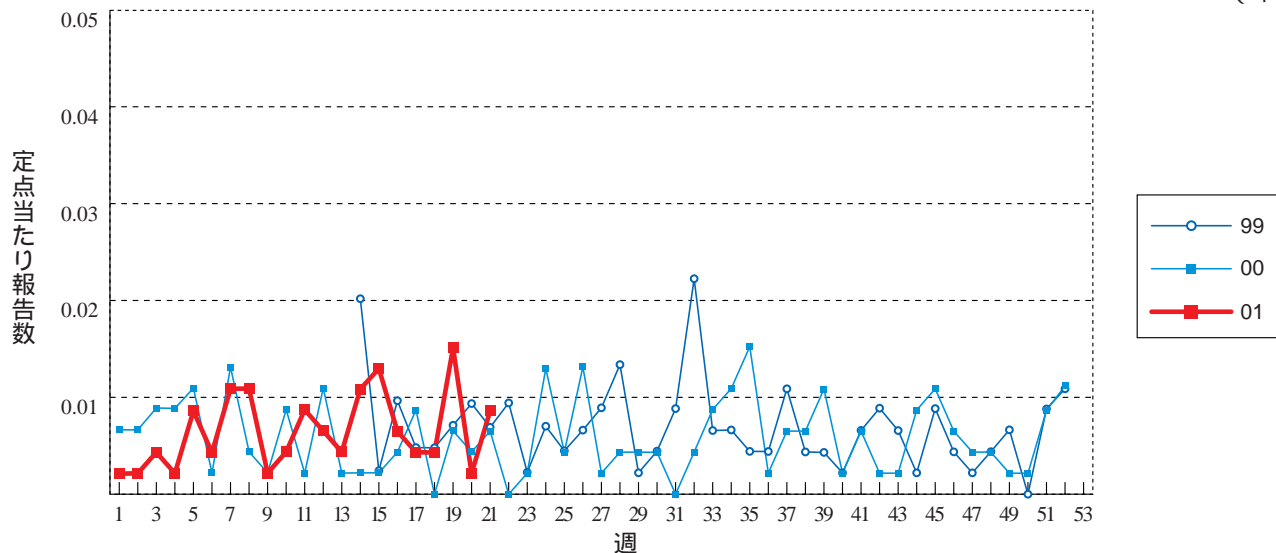


流行性角結膜炎



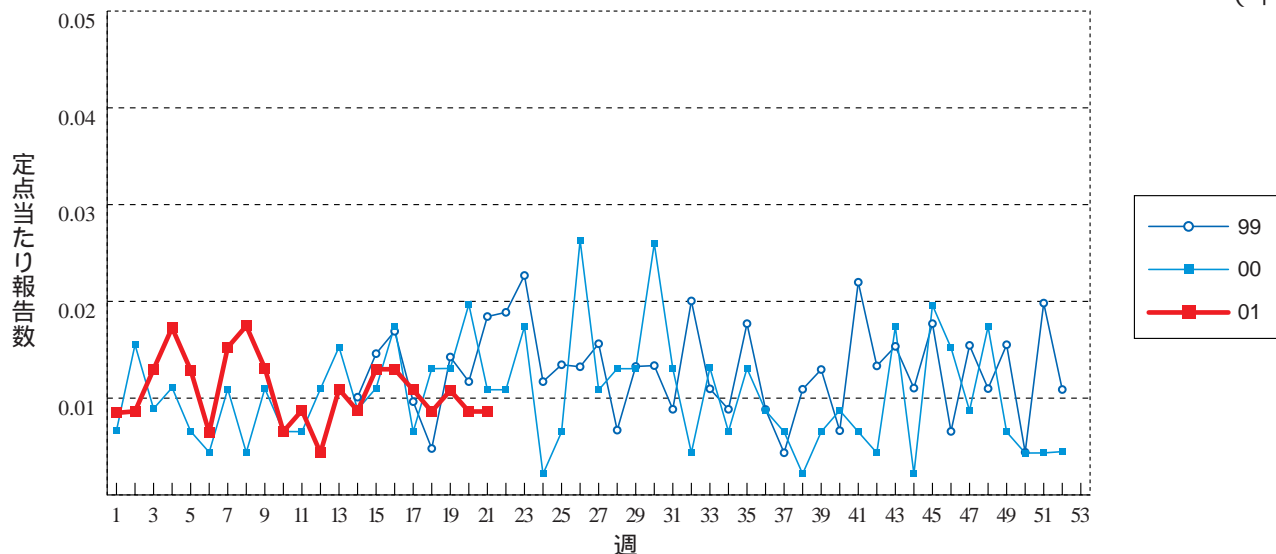
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



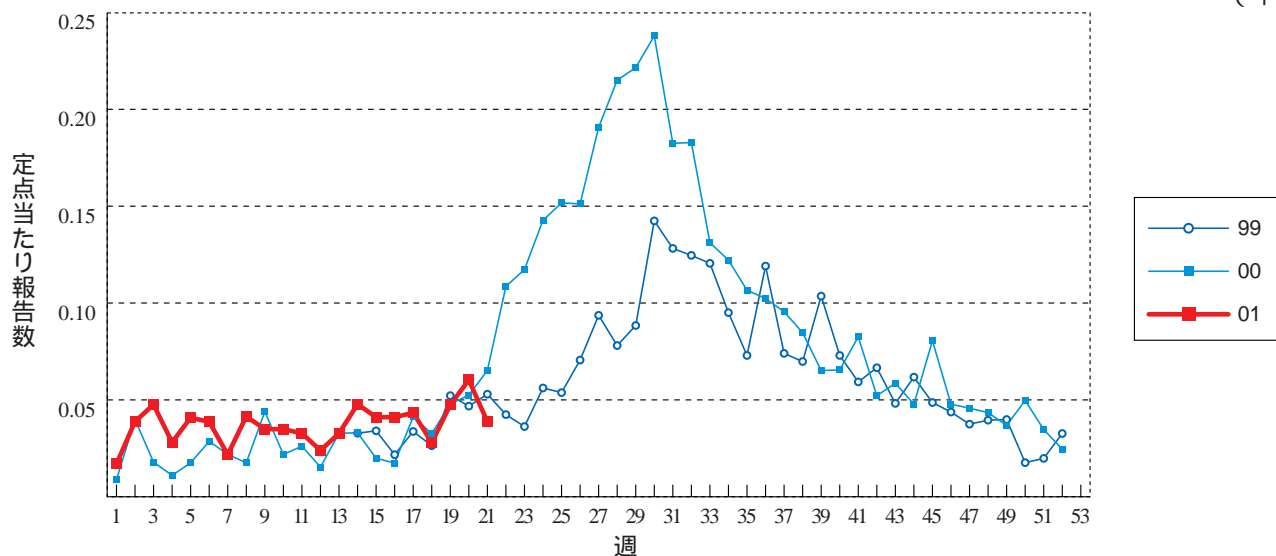
細菌性髄膜炎

(年)



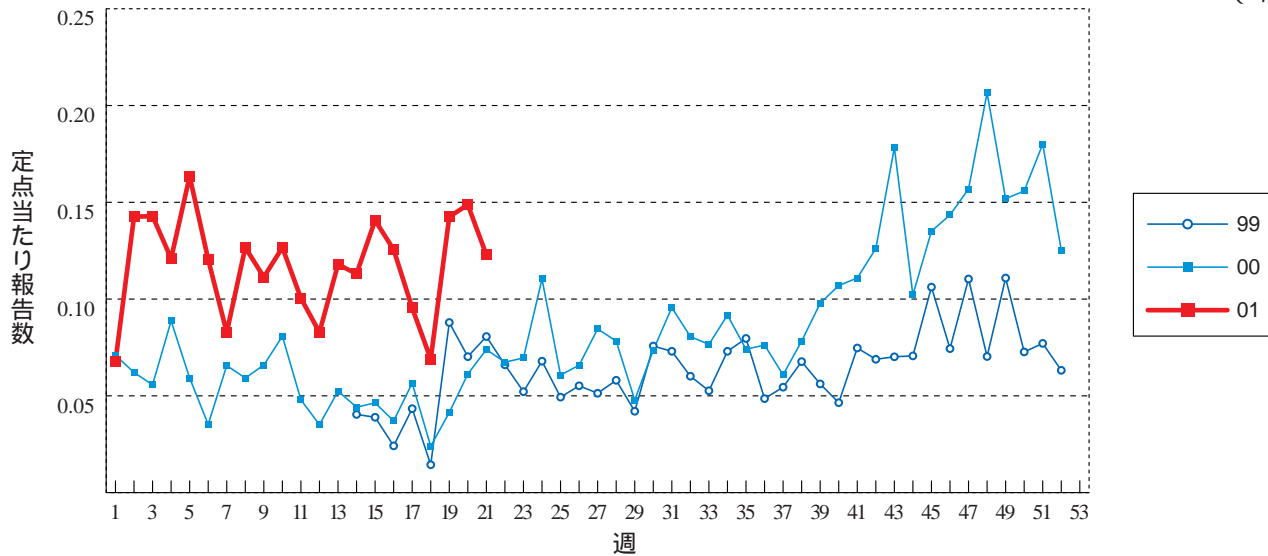
無菌性髄膜炎

(年)



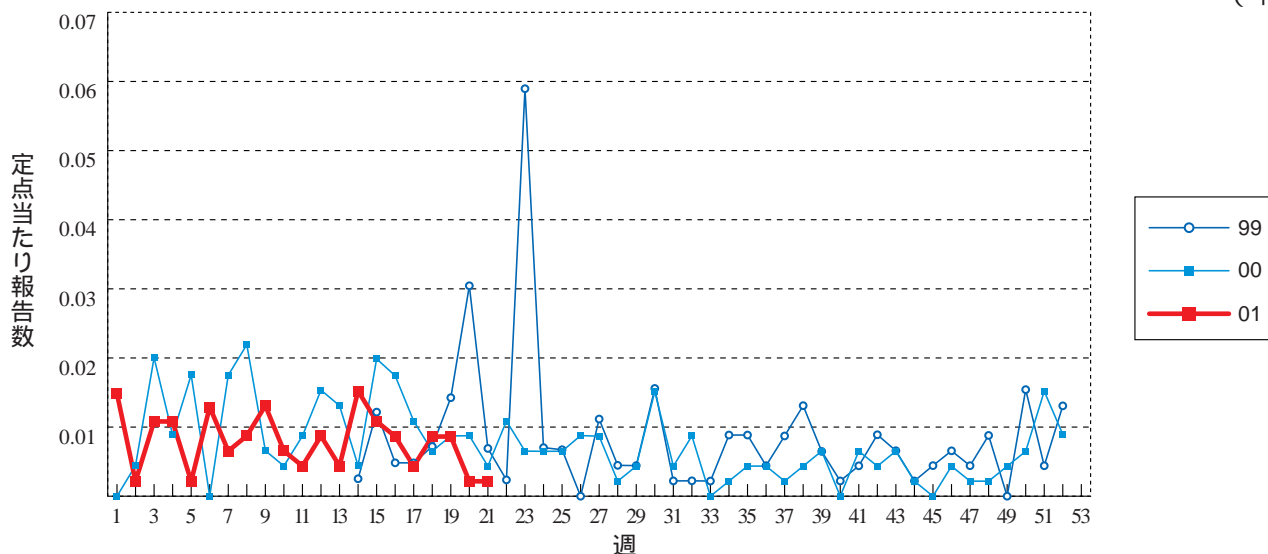
マイコプラズマ肺炎

(年)



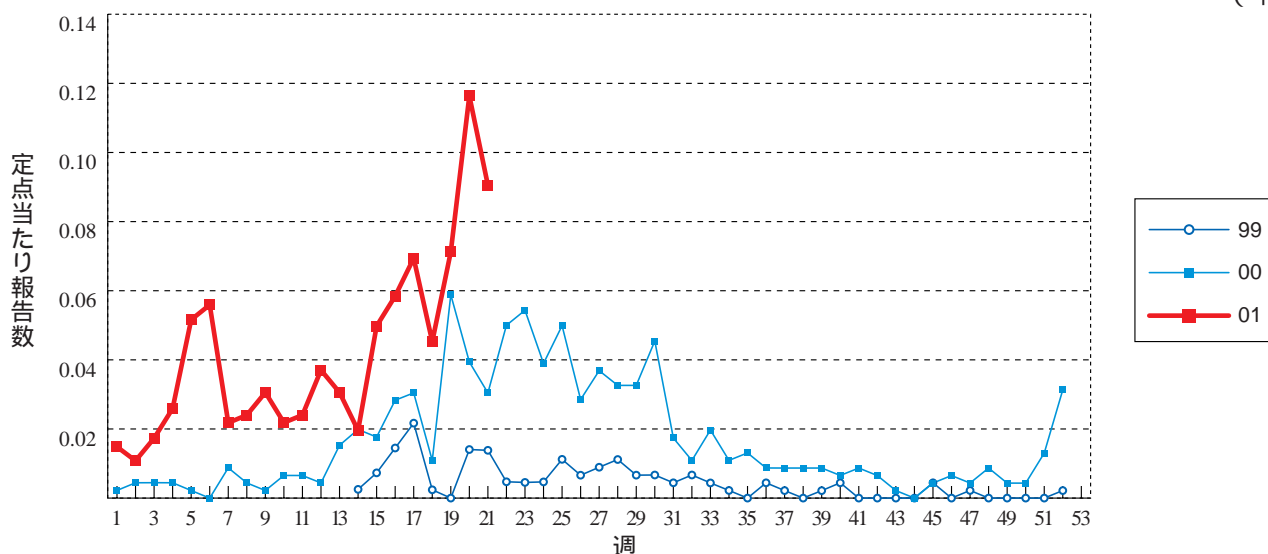
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





21週のデータ

注)表中の報告数は6月1日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年21週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	5	264	2	24	-	9	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	54	1	7	-	6	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	20	-	-	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	9	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	18	-	2	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	19	1	5	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	12	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年21週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	53	661	4	134	-	2	-	-	-	11	-	-	12	304
北海道	-	-	-	-	1	9	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	13
秋田県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
山形県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
栃木県	-	-	-	-	2	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
群馬県	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
埼玉県	-	-	-	-	4	49	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
千葉県	-	-	-	-	1	141	-	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	2	42	2	39	-	-	-	-	-	5	-	-	1	41
神奈川県	-	-	-	-	6	51	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	14	18	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	31
静岡県	-	-	-	-	1	12	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
愛知県	-	-	-	-	5	31	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
三重県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	1	13	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	27	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大阪府	-	-	-	-	2	64	-	24	-	-	-	-	-	1	-	-	1	30
兵庫県	-	-	-	-	2	22	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	34
奈良県	-	-	-	-	-	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	2	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	2	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
広島県	-	-	-	-	-	21	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
山口県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	4	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	2	21	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
宮崎県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
鹿児島県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年21週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	8	-	-	-	3	1	37	2	20	15	336	-	1	1	51	-	-
北海道	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	6	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	20	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	6	148	-	-	1	29	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	3	-	-	1	35	-	-	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	4	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	1	1	-	6	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	12	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	6	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	2	26	-	-	-	5	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年21週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ボツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	3	-	-	-	-	8	100	1	11	1	2	-	-	-	-	5	195
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
東京都	-	1	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	37
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	5	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	37
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	8
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年21週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	17	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	2	36	-	-	1	30
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	1	1
千葉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
東京都	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	4
神奈川県	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年21週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	986	0.21	476	0.16	3808	1.27	13231	4.40	7494	2.49	2480	0.83	2070	0.69	2764	0.92	40	0.01
北海道	29	0.13	-	-	197	1.36	336	2.32	368	2.54	10	0.07	27	0.19	103	0.71	1	0.01
青森県	9	0.14	-	-	23	0.56	56	1.37	114	2.78	20	0.49	21	0.51	30	0.73	-	-
岩手県	54	0.89	-	-	23	0.62	72	1.95	82	2.22	1	0.03	32	0.86	18	0.49	-	-
宮城県	33	0.34	5	0.08	89	1.51	359	6.08	188	3.19	6	0.10	56	0.95	58	0.98	1	0.02
秋田県	36	0.65	-	-	43	1.23	164	4.69	75	2.14	11	0.31	39	1.11	31	0.89	2	0.06
山形県	59	1.23	1	0.03	79	2.63	161	5.37	79	2.63	4	0.13	43	1.43	29	0.97	3	0.10
福島県	4	0.05	-	-	25	0.52	268	5.58	145	3.02	7	0.15	33	0.69	40	0.83	1	0.02
茨城県	14	0.12	2	0.03	98	1.34	230	3.15	112	1.53	9	0.12	14	0.19	41	0.56	2	0.03
栃木県	2	0.03	4	0.09	90	1.96	116	2.52	84	1.83	-	-	24	0.52	44	0.96	-	-
群馬県	12	0.12	19	0.31	123	1.98	192	3.10	164	2.65	12	0.19	57	0.92	54	0.87	-	-
埼玉県	19	0.07	30	0.19	301	1.89	866	5.45	457	2.87	81	0.51	311	1.96	184	1.16	3	0.02
千葉県	6	0.03	33	0.25	235	1.75	576	4.30	521	3.89	46	0.34	171	1.28	142	1.06	2	0.01
東京都	2	0.01	8	0.06	75	0.53	395	2.78	205	1.44	32	0.23	74	0.52	85	0.60	1	0.01
神奈川県	36	0.12	45	0.22	220	1.07	805	3.91	532	2.58	31	0.15	172	0.83	228	1.11	5	0.02
新潟県	42	0.42	24	0.40	166	2.77	447	7.45	126	2.10	18	0.30	13	0.22	40	0.67	1	0.02
富山県	14	0.29	1	0.03	61	2.10	177	6.10	69	2.38	-	-	18	0.62	22	0.76	-	-
石川県	2	0.04	-	-	23	0.79	252	8.69	65	2.24	9	0.31	15	0.52	23	0.79	2	0.07
福井県	-	-	1	0.05	40	1.82	200	9.09	64	2.91	15	0.68	23	1.05	27	1.23	-	-
山梨県	19	0.46	3	0.12	19	0.76	64	2.56	34	1.36	31	1.24	36	1.44	7	0.28	-	-
長野県	34	0.40	3	0.06	118	2.19	340	6.30	241	4.46	18	0.33	16	0.30	43	0.80	-	-
岐阜県	15	0.20	17	0.36	73	1.55	137	2.91	95	2.02	16	0.34	35	0.74	37	0.79	2	0.04
静岡県	17	0.12	10	0.12	96	1.12	411	4.78	274	3.19	17	0.20	77	0.90	96	1.12	1	0.01
愛知県	50	0.26	85	0.47	228	1.25	590	3.24	476	2.62	32	0.18	147	0.81	150	0.82	2	0.01
三重県	16	0.22	9	0.20	70	1.56	253	5.62	125	2.78	69	1.53	51	1.13	61	1.36	-	-
滋賀県	-	-	42	1.31	18	0.56	105	3.28	65	2.03	5	0.16	5	0.16	18	0.56	1	0.03
京都府	11	0.09	7	0.09	68	0.89	431	5.67	134	1.76	18	0.24	17	0.22	61	0.80	-	-
大阪府	7	0.02	9	0.05	165	0.85	834	4.30	415	2.14	32	0.16	66	0.34	159	0.82	2	0.01
兵庫県	25	0.13	6	0.05	131	1.02	848	6.63	311	2.43	124	0.97	58	0.45	112	0.88	-	-
奈良県	1	0.02	1	0.03	37	1.06	175	5.00	69	1.97	4	0.11	30	0.86	28	0.80	-	-
和歌山県	2	0.04	1	0.03	27	0.87	140	4.52	70	2.26	2	0.06	1	0.03	46	1.48	-	-
鳥取県	1	0.03	9	0.47	82	4.32	149	7.84	50	2.63	2	0.11	4	0.21	21	1.11	-	-
島根県	16	0.42	2	0.09	3	0.13	60	2.61	21	0.91	5	0.22	2	0.09	15	0.65	-	-
岡山県	139	1.65	7	0.13	38	0.70	176	3.26	85	1.57	6	0.11	4	0.07	25	0.46	-	-
広島県	2	0.02	4	0.08	100	1.96	310	6.08	126	2.47	20	0.39	45	0.88	59	1.16	1	0.02
山口県	10	0.14	22	0.45	88	1.80	247	5.04	125	2.55	114	2.33	31	0.63	68	1.39	1	0.02
徳島県	5	0.13	-	-	49	2.13	77	3.35	52	2.26	16	0.70	11	0.48	26	1.13	1	0.04
香川県	2	0.04	1	0.03	24	0.75	109	3.41	36	1.13	1	0.03	11	0.34	25	0.78	-	-
愛媛県	2	0.03	2	0.05	40	1.03	169	4.33	101	2.59	10	0.26	34	0.87	35	0.90	1	0.03
高知県	9	0.18	1	0.03	44	1.42	122	3.94	95	3.06	1	0.03	5	0.16	27	0.87	-	-
福岡県	99	0.61	10	0.10	124	1.18	493	4.70	334	3.18	609	5.80	100	0.95	111	1.06	1	0.01
佐賀県	9	0.23	5	0.22	18	0.78	91	3.96	83	3.61	72	3.13	12	0.52	30	1.30	-	-
長崎県	-	-	5	0.10	16	0.33	139	2.90	88	1.83	65	1.35	15	0.31	39	0.81	1	0.02
熊本県	12	0.15	21	0.43	44	0.90	208	4.24	105	2.14	211	4.31	24	0.49	84	1.71	-	-
大分県	19	0.33	2	0.06	55	1.53	275	7.64	113	3.14	325	9.03	16	0.44	61	1.69	2	0.06
宮崎県	-	-	4	0.11	88	2.38	252	6.81	114	3.08	227	6.14	44	1.19	51	1.38	-	-
鹿児島県	37	0.38	15	0.25	30	0.50	337	5.62	136	2.27	111	1.85	29	0.48	47	0.78	-	-
沖縄県	54	0.93	-	-	4	0.12	17	0.50	71	2.09	5	0.15	1	0.03	23	0.68	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年21週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	91	0.03	884	0.29	1613	0.54	4597	1.53	37	0.06	867	1.38	4	0.01	4	0.01	18	0.04
北海道	4	0.03	6	0.04	119	0.82	157	1.08	1	0.03	29	1.00	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	1	0.02	18	0.44	41	1.00	-	-	14	1.27	-	-	-	-	-	-
岩手県	2	0.05	3	0.08	13	0.35	14	0.38	-	-	16	1.33	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	18	0.31	35	0.59	51	0.86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	1	0.03	9	0.26	29	0.83	1	0.14	4	0.57	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	1	0.03	4	0.13	51	1.70	-	-	4	0.50	-	-	-	-	1	0.10
福島県	1	0.02	2	0.04	52	1.08	48	1.00	3	0.25	17	1.42	-	-	-	-	1	0.14
茨城県	2	0.03	6	0.08	31	0.42	98	1.34	1	0.06	68	4.25	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	11	0.24	8	0.17	47	1.02	2	0.17	28	2.33	-	-	1	0.14	-	-
群馬県	2	0.03	28	0.45	14	0.23	51	0.82	-	-	46	3.29	-	-	-	-	-	-
埼玉県	3	0.02	49	0.31	37	0.23	299	1.88	2	0.06	60	1.67	-	-	-	-	-	-
千葉県	5	0.04	8	0.06	121	0.90	221	1.65	2	0.06	66	1.89	-	-	-	-	-	-
東京都	8	0.06	27	0.19	38	0.27	101	0.71	-	-	23	1.64	-	-	1	0.04	1	0.04
神奈川県	15	0.07	30	0.15	48	0.23	392	1.90	2	0.05	82	1.95	-	-	-	-	-	-
新潟県	2	0.03	11	0.18	5	0.08	167	2.78	1	0.11	8	0.89	-	-	-	-	3	0.23
富山県	-	-	1	0.03	-	-	51	1.76	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1	0.03	25	0.86	40	1.38	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	4	0.18	2	0.09	116	5.27	-	-	8	2.67	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	-	-	3	0.12	21	0.84	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
長野県	3	0.06	3	0.06	20	0.37	111	2.06	2	0.20	26	2.60	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	3	0.06	22	0.47	87	1.85	-	-	10	0.91	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	11	0.13	22	0.26	154	1.79	-	-	18	0.90	-	-	-	-	-	-
愛知県	3	0.02	39	0.21	125	0.69	281	1.54	-	-	49	1.40	-	-	1	0.08	-	-
三重県	-	-	18	0.40	7	0.16	133	2.96	-	-	3	0.25	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	1	0.03	9	0.28	15	0.47	36	1.13	-	-	7	1.00	1	0.14	-	-	1	0.14
京都府	3	0.04	33	0.43	21	0.28	135	1.78	2	0.11	14	0.78	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	9	0.05	116	0.60	77	0.40	311	1.60	3	0.06	30	0.58	-	-	-	-	2	0.17
兵庫県	3	0.02	106	0.83	19	0.15	118	0.92	3	0.09	28	0.80	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	24	0.69	19	0.54	40	1.14	-	-	10	1.11	-	-	-	-	1	0.17
和歌山県	-	-	23	0.74	8	0.26	25	0.81	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	16	0.84	1	0.05	10	0.53	-	-	-	-	1	0.20	-	-	-	-
島根県	-	-	10	0.43	4	0.17	24	1.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.04	18	0.33	39	0.72	58	1.07	-	-	16	1.33	-	-	1	0.20	-	-
広島県	2	0.04	29	0.57	92	1.80	73	1.43	-	-	34	2.83	1	0.07	-	-	1	0.07
山口県	-	-	3	0.06	26	0.53	63	1.29	2	0.22	10	1.11	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	10	0.43	3	0.13	23	1.00	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	2	0.06	6	0.19	27	0.84	71	2.22	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.03	24	0.62	15	0.38	72	1.85	-	-	11	1.57	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	15	0.48	25	0.81	13	0.42	-	-	9	3.00	-	-	-	-	1	0.13
福岡県	10	0.10	66	0.63	122	1.16	287	2.73	-	-	31	1.29	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	16	0.70	10	0.43	74	3.22	-	-	6	1.50	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	9	0.19	23	0.48	51	1.06	5	0.50	12	1.20	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	26	0.53	76	1.55	86	1.76	2	0.22	12	1.33	1	0.07	-	-	2	0.13
大分県	-	-	11	0.31	62	1.72	68	1.89	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	3	0.08	18	0.49	65	1.76	49	1.32	-	-	12	3.00	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	3	0.05	10	0.17	42	0.70	90	1.50	3	0.50	14	2.33	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	4	0.12	44	1.29	59	1.74	-	-	11	1.10	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年21週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	57	0.12	1	0.00	42	0.09
北海道	-	-	-	-	2	0.09
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	2	0.10	-	-	-	-
宮城県	2	0.17	-	-	2	0.17
秋田県	-	-	-	-	1	0.13
山形県	1	0.10	-	-	-	-
福島県	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	-	-	2	0.20
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	7	0.54
東京都	1	0.04	-	-	9	0.36
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	2	0.40
福井県	3	0.50	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.13	-	-	-	-
愛知県	2	0.15	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	0.17	-	-	4	0.33
兵庫県	-	-	-	-	2	0.14
奈良県	3	0.50	-	-	1	0.17
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	6	1.20	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	2	0.14	-	-	1	0.07
山口県	-	-	1	0.11	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	3	0.50	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	2	0.13	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	4	0.27	-	-	2	0.13
大分県	1	0.10	-	-	2	0.20
宮崎県	3	0.43	-	-	-	-
鹿児島県	3	0.25	-	-	-	-
沖縄県	2	0.29	-	-	4	0.57

感染症週報 第3巻、第21号 平成13年6月8日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html

<国立感染症研究所 感染症情報センター>

http://www.mhlw.go.jp/

<厚生労働省>

http://www.forth.go.jp/

<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。